

---

# 不知火冷一郎の素顔

小宮山蘭子

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

不知火冷一郎の素顔

### 【Nコード】

N9299T

### 【作者名】

小宮山蘭子

### 【あらすじ】

ロックグループ「YAMINABE」は、今や日本を代表する超人気ロックバンド。ところが、ある日突然解散が発表された。マスコミはボーカルの不知火冷一郎を突撃取材するが……

(前書き)

これは、昨年末に開催された有志による“覆面”企画「仮面舞踏会2010」において、習作として書いたものです。

すっかり忘却の彼方でしたが、別の作品のプロットを練っていた際にふと思い出したので、アップしておきますーw

2時間ぐらいで書いたものですから、ホント適当ですが、いちおう記念(?)としてw

以下は、作品に関する企画での決まりごとです。

テーマ

「ロックンロール」?

下記の二つの台詞を【 】でくくって、作品に入れること

2

「それはもう終わったことだから」

「〜〜が〜〜だと思ったの生まれて初めてかもしれない」

では、ひまつぶしにでもございませう。

ロックグループ「YAMINABE」は、今や日本を代表する超大物人気ロックバンドだ。

二年前、デビュー曲「玉の輿」がロリコン初登場一位を記録して以来、「三つの袋」「堅焼きそば」「松本いーよ」「要介護」と、ミリオンセラーを叩き出してきた。中でも、昨年リリースされた「エリンギの気持ち」は、ボーカル・不知火冷一郎しらいちろうが特別出演を果たした映画「中出し少年」のテーマソングとして400万枚に及ぶ大ヒットを記録した。

ところが、ある日、衝撃的な見出しがスポーツ紙の一面に踊った。「YAMINABE 解散！」というものである。

記者会見は行われず、公式ファンサイトにも解散の事実のみが短く告知されただけだった。ワイドショーでも取り上げられ、バンドのメンバーのみならず関係者たちは連日記者に追い回されたが、誰もが口を閉ざしたまま、解散の理由については、一切公表されなかった。

もともと、ミステリアスなグループであることがの売りで、メンバーのプロフィールやプライベート・デビューまでの経緯など、すべて謎に包まれていた。そのため、マスコミはなかなか詳細をつかむことができず、メンバー不仲説、独立問題、海外進出への挫折……といった、様々な憶測が飛び交っていた。

10日ほど過ぎた頃、不知火冷一郎の自宅マンションを張り込んでいた某テレビ局の記者とカメラマンが、ついに冷一郎への接触到成功した。

記者は裏口から地下へ入ろうとする冷一郎の愛車・ポルシェを確認すると、食い下がるようにすがりつき、

「不知火さん、解散の理由をお聞かせください！」と、叫んだ。と、スモークが貼られた窓がゆっくりと開き……

「?!」

記者はきよとんとした。中に乗っていたのは、野暮ったい雰囲気、学生風の青年だった。寝癖の付いた黒い短髪に、皺がよっている薄汚れたポロシャツを着ていた。少し汗臭い。どう見ても、冷一郎とは別人だった。

冷一郎は、プラチナブランドのサラサラロン毛とモスグリーンのカラーコンタクトがトレードマーク。ディオールオムがお気に入り、いつもアクセサリーや香水をふんだんに身にまとっているのだから。

しかし……

「おいになんの用があつとね？ わいたちに話すことやら、なあんもなかよ」

「はあ？ “おい” って……あのう、解散のこと……」

「【そいはもう終わったことやけん】。ごめんけど、もう行くばい。そこ、どかんね」

眉間に皺を寄せて窓を閉めようとする男を、記者はあわてて制止した。

「ちよつと！ まさか、君……」

そう言いながらマジマジと男の顔を見つめる。冷一郎には、唇の横に小さなホクロがあり、それもまたセクシーな雰囲気をもし出すのに一役買っていた。記者が何気なく男の口元を凝視してみると……ホクロがある。

格好は全く別人だ。あまりにもかけ離れている。だが、男の顔は、冷一郎とぴったり重なった。

「れ、れ、冷一郎?!」

その模様が全国に報じられ、列島に激震が走った。

“不知火冷一郎の素顔”……特にファンにとっては、YAMINA

BE解散よりもずっと重大なニュースだった。

さらに、騒動は波紋を広げた。その映像を見た九州在住の人たちから、テレビ局に多くの情報が寄せられたのである。

「あれは、三年前“東京でひとはたあげる”って出て行った、長崎の松谷輝夫に違いありません」と。

こうして、不知火冷一郎こと松谷輝夫は、記者会見に引つ張り出されるに到った。

輝夫は、デビュー以来ずっと「YAMINABE」の敏腕マネージャーとして支えてくれた堀内に付き添われ、会見場に現れた。

まばゆいフラッシュの中、ぼつんと座った平凡な一人の青年は、「まぶしか〜」【自分がホントに芸能人なんやねえって思ったの、生まれて初めてかもしれんばい】と、笑った。

解散の理由は、輝夫が実家に帰って父親の跡を継ぎ、傾きかけたびわ農園を自らの貯金をはたいて再建したい……と決意したことがきっかけだ、と語った。

「もうやりたいことは何もかんもしてしまつたし、まあ、ずっと親不孝してきたけん、どうしても、そうしたかったとです」

会見後、マネージャーの堀内はタクシーに飛び乗り、成田空港に向かった。

北ウイングの出発ロビーで、一人の男と会う予定だったのである。

「ほんとに、あれでよかったのか？」

ため息をつく堀内に、男は言った。

「ああ、あれでいい」

「しかし、わざわざファンの夢を壊すような方法を選ばなくつたって……」

「ああでもないといつまでもこっちが追い回される。これでY

AMINABE解散騒動は幕引きだ。悲しませるより、怒らせる方が傷は浅い。次に進むことができる。恋の終わりだって、そうだろう？

と、男は短くなった金髪をかきあげ、笑った。堀内も微笑み返し、言った。

「身代わりの松谷には、報酬と口止め料をしっかり渡しておいた。他のメンバーにもきちんと理解してもらった。おまえは心置きなく体を治して帰って来い……いつかまた、一緒に」

「いや」

男は堀内をさえぎった。

「二度と戻って来れないとわかっているから、こんな方法を選んだ。静かに、死にたかったから」

「……冷一郎」

「不知火冷一郎はもういない。オレは“モーリス・ヤマモト”に戻るよ」

搭乗案内のアナウンスが流れた。

堀内はモーリスと強い握手を買わした。彼のサングラスの下は、カラーコンタクトではない本物のグリーンアイ。それは、柔らかで満足げな笑みをたたえていた。

搭乗口に吸い込まれるモーリスを見送った。目が熱くなり、去っていくモーリスの背中がかすんだ。

心の中で、つぶやく。

「さよなら、不知火冷一郎」

おわり



(後書き)

ちなみに、企画に正式にエントリーした作品は「啓河物語」でした。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9299t/>

---

不知火冷一郎の素顔

2011年10月5日13時00分発行